

## 東京電力福島第一原子力発電所廃炉対策推進会議（第3回）議事要旨

1. 日 時 平成25年4月19日（金） 18:15～18:30
2. 場 所 経済産業省本館2階 西3共用会議室
3. 出席者

議 長	茂木	敏充	経済産業大臣
委 員	福井	照	文部科学副大臣
	廣瀬	直巳	東京電力(株)代表執行役社長
	鈴木	篤之	(独)日本原子力研究開発機構(JAEA)理事長
	佐々木	則夫	(株)東芝代表執行役社長
委員代理	丸	彰	(株)日立製作所技監
規制当局	田中	俊一	原子力規制委員会委員長
事務局長	中西	宏典	経済産業省大臣官房審議官（エネルギー・技術担当）
オブザーバー	内堀	雅雄	福島県副知事
4. 議 題 汚染水処理対策委員会の設置と検討事項

### 5. 議事概要

#### ○茂木大臣より開会挨拶

- ・福島第一原発において、東京電力の汚染水の問題は廃炉をこれから進めていく上でも最も深刻な問題の一つ。今般の汚染水の漏洩事故に対する当面の対策と同時に、汚染水問題全体を根本的に解決する中長期的な対応を検討するために、廃炉対策推進会議の下に汚染水処理対策委員会を設置して、政府、そして原子力規制委員会、さらには東京電力、産業界が一体で早急に検討を開始し、方向性を打ち出していくことが重要であると考えている。
- ・また、汚染水処理を含めて、福島第一原発の廃炉の着実な実施に向けて、事業者任せにするのではなく、経済産業省と原子力規制委員会が協力・連携を図って、政府一丸となって取り組んでいくという意味を含めて、今回から田中委員長にメンバーとしてご参加いただく事をお願いした。
- ・今日は福島県からも内堀副知事にお越しいただいている。福島の地元の方々そして国民の皆様の不安を少しでも早く解消するため、東京電力、そして原子力規制委員会、経済産業省が協力・連携を図り、一日でも早く汚染水処理の問題に道筋を付けて行きたいと考えている。

#### ○事務局(中西事務局長)より【資料1】及び【資料2】に基づき汚染水処理対策委員会の設置について説明。

#### ○田中規制委員会委員長

- ・汚染水処理の関係について、少し申し上げておく。これまでは規制機関としての立場から、対策策定の場合

ら少し距離を置いていた。しかし、今回、汚染水漏えい問題に至り、より積極的な対応を取る必要があると考え、先日参加させていただいた。汚染水問題については、当面の課題への対処のみならず、抜本的な解決策を、以下の4点について対応することが必要であると考えている。また、これらの問題は先送りできない課題であり、具体的な対策を構ることが福島県の皆様に安心していただく観点からも重要であると考えている。

- ・まず、当面の課題として地下貯水槽からの汚染水の移送先の確保を行うこと。また、漏えいした汚染水のモニタリングを的確に実施し、環境への影響を把握すること。
- ・2番目に、増加する汚染水を安全に管理・貯蔵するためのタンク容量を確実に確保すること。その際、既存のタンクの寿命を踏まえた設備更新を含めたものとする。
- ・3番目に、これまでのように汚染水の量が拡大していく一方では限界があるということは明かであるため、地下水の流入抑制等の対策を含め、汚染水の総量を増加させないシステムを構築すること。
- ・4番目に、タービン建屋地下などにある高濃度汚染水が海に漏えいすることを未然に防ぐための対策を策定すること。その際、特にタービン建屋の側から海側へ伸びるトレンチには十分配慮すること。
- ・付け加えるが、汚染水問題のみならず、最近トラブルが頻発している実態の背景には福島第一原子力発電所が応急的な設備に大きく依存している実態がある。このため、このサイトには通常の原子力発電所とは異なる様々なリスクが存在している。この現実を直視して、先を見た十分な対策を講じていく必要があることについて認識を共有していただきたい。そうした面において私どもも最善を尽くして行きたい。

#### ○廣瀬委員

- ・汚染水の問題のみならず、ネズミによる停電を始め、このところトラブルが多発しておりまして、大変皆様にご負担をおかけして、本当に申し訳ございません。特に、避難されている皆様、あるいは、これからまさにご帰宅を計画されている皆様に大変なご心配・不安をお与えてしまったと重々申し訳なく思っています。
- ・現在、緊急対策本部を設置し、東京電力のあらゆる経営支援リソースを投入して、汚染水の問題は勿論、電気系、機械系、電子・電気の問題を総点検して、今、田中委員長からお話があったが、まだまだ仮設あるいは応急的な施設の部分が残っているので、それらを徹底的に洗い出して、少しでも改新させていくような事に取り組んでいるところ。
- ・そうした中で、廃炉対策推進会議の下に汚染水処理対策委員会設置されることになり、これからまだ汚染水の問題については、地下水バイパスによる流入量の抑制であるとか、中長期的にはどうやって海に流さないようにするか、あるいはトリチウムの問題等々まだまだたくさんの課題があるので、汚染水処理対策委員会の下で様々な専門性をお持ちの皆様からご助力をいただき、私どももしっかり対応してまいりたい。

#### ○福井副大臣

- ・特に、水分子と同じ形態なので、難しいというトリチウム。日本原子力研究開発機構、この場にも鈴木理事長がいらっしゃるが、今後も、文科省としてもがんばっていくので、よろしく願い申し上げます。

○茂木大臣

- ・今後、関係者それぞれ基本的な役割を踏まえつつ、国を挙げてこの汚染水の処理の抜本対策を検討して行くに当たり、議長として私の方から何点かご指示申し上げたい。
- ・汚染水処理対策委員会において、大西委員長の下でこれから地下水の流入抑制対策、トリチウムの処理対策等について早急な検討を進めていただきたい。トリチウムの処理、新たな研究開発も必要なのかと思っている。
- ・特に地下水の流入対策については、5月中を目処に今後の対応の方向性の第一弾を取りまとめていただきたい。その検討に当たっては、抜本的対策の実現に向けた課題をつまびらかにし、そして、関係者が知恵を出し合い、国際的な知見も活用して解決策を見いだすことが必要である。
- ・2番目に、この新たな委員会の方で取りまとめる、今後の対応の方向性につきましては、6月中を目処にとりまとめる中長期のロードマップの改訂に反映をしていきたい。その上で、対策の進捗状況を確認し、新たな課題が発生した場合にはそれにも迅速かつ的確に対応していきたい。

以上